

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	横浜 f カレッジ
設置者名	学校法人岩崎学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
服飾・家政 専門課程	ファッションクリエイター科 (1年生)	夜・通信	14 単位	13 単位	
	ファッションライフデザイン学科 (1年生)	夜・通信	10 単位	10 単位	
	ファッションライフデザイン学科 (2～3年生)	夜・通信	270 時間	240 時間	
	ファッションビジネス科 (1年生)	夜・通信	8 単位	7 単位	
	ファッションビジネス科 (2年生)	夜・通信	180 時間	160 時間	
文化・教養 専門課程	ブライダル科 (1年生)	夜・通信	7 単位	7 単位	
	ブライダル科 (2年生)	夜・通信	210 時間	160 時間	
	アドバンスドブライダル科	夜・通信	4 単位	4 単位	
	ビューティーコーディネート科 (1年生:メイクアップコース)	夜・通信	8 単位	7 単位	
	ビューティーコーディネート科 (2年生:メイクアップコース)	夜・通信	180 時間	160 時間	
	ビューティーコーディネート科 (1年生:ネイルコース)	夜・通信	8 単位	7 単位	
	ビューティーコーディネート科 (2年生:ネイルコース)	夜・通信	180 時間	160 時間	
	ビューティーコーディネート科 (1年生:エステティック・ウェルネスコース)	夜・通信	8 単位	7 単位	
	ビューティーコーディネート科 (2年生:エステティック・ウェルネスコース)	夜・通信	180 時間	160 時間	
衛生 専門課程	美容師科 (1年生)	夜・通信	7 単位	7 単位	
	美容師科 (2年生)	夜・通信	210 時間	160 時間	
	ヘアメイク・アイデザイン科 (1年生)	夜・通信	7 単位	7 単位	
	ヘアメイク・アイデザイン科 (2年生)	夜・通信	210 時間	160 時間	

(備考)

- ・1年生は単位制、2年生以上は時間制。
- ・ファッションクリエイター科は令和8年度新設（令和11年度完成）。

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

閲覧用シラバスファイルを教職員室に備え付け公表

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	横浜 f カレッジ
設置者名	学校法人岩崎学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

法人本部事務所に備え付け

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	企業経営者	令和7年5月29日 ～ 令和11年度定時 評議員会終結時	法人運営に関する 助言と指導
非常勤	企業経営者	令和7年5月29日 ～ 令和11年度定時 評議員会終結時	法人運営に関する 助言と指導
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	横浜 f カレッジ
設置者名	学校法人岩崎学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 当該年度の前年度に、当該年度の学科毎の教育計画（学科グランドデザイン）を策定し、教育関係者評価委員会で検討。その結果を反映させた学科グランドデザインに基づき、科目毎に、下記内容で構成されたシラバスを当該前年度末までに作成・公表。 ・科目名、授業方法、授業時間数、単位数、企業連携の有無 ・担当講師名、講師区分、実務経験の有無（有の場合：実務経験内容） ・科目概要、達成目標、学科内の科目位置付け、関連科目 ・科目評価基準（評価方法：試験評価、出席評価、課題評価） ・年間授業計画（単元ごとの授業内容、課題内容、学習達成点） オムニバス形式の授業の場合は、単元ごとに講師名を記載する。	
授業計画書の公表方法	科目ごとに、第 1 回目授業内に担当教員より学生に Web 上の LMS を使用し伝達。 閲覧用シラバスファイルを教職員室に備え付け公表
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学修成果の評価については、授業科目毎にシラバスに明記し、予め学生の学習目標となるよう提示。評価は、前期と学年末に、シラバスに明記した評価基準を基に 5 段階または 2 段階評価で実施。通年科目の学年末評価は、前期評価も含めた総合評価としている。 (成績評価基準) ・5 段階評価の場合 - S：100 点法における 100～90 점에該当 - A：100 点法における 89～80 점에該当 - B：100 点法における 79～70 점에該当 - C：100 点法における 69～60 점에該当 - D（不合格）：100 点法における 59～0 점에該当 ・2 段階評価の場合 - 認：合格 - 否：不合格 ※両評価方法とも、欠席が出席すべき教科科目の 3 分の 1 を超えるものは不合格となる。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) - 対象科目 卒業算入対象科目。 但し、認定科目については、GPA 計算の対象外。 - 算出方法 各授業科目の成績評価に、下記の Grade Point を与え、 「授業科目の時間数×Grade Point」の和を総履修時間数で除して算出。 - Grade Point - S : 4.0 - A : 3.0 - B : 2.0 - C : 1.0 - 不合格 : 0 *GPA は小数点第 3 位を四捨五入し、小数点第 2 位まで表示。																			
客観的な指標の算出方法の公表方法	閲覧用シラバスファイルに GPA 指標を添付し教職員室に備え付け公表。																		
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 成績の評価の「S」、「A」、「B」、「C」および「認」評価を合格とし、合格した科目については、所定の単位を認定する。 卒業にあたっては、必修・選択必修科目の単位がすべて認定されることが条件となる。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>学科名</th><th>卒業に必要な単位</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ファッションクリエイター科</td><td>130 単位</td></tr> <tr> <td>ファッションライフデザイン学科</td><td>105 単位</td></tr> <tr> <td>ファッションビジネス科</td><td>67 単位</td></tr> <tr> <td>ブライダル科</td><td>63 単位</td></tr> <tr> <td>アドバンスドブライダル科</td><td>34 単位</td></tr> <tr> <td>ビューティーコーディネート科</td><td>72 単位</td></tr> <tr> <td>美容師科</td><td>68 単位</td></tr> <tr> <td>ヘアメイク・アイデザイン科</td><td>68 単位</td></tr> </tbody> </table>		学科名	卒業に必要な単位	ファッションクリエイター科	130 単位	ファッションライフデザイン学科	105 単位	ファッションビジネス科	67 単位	ブライダル科	63 単位	アドバンスドブライダル科	34 単位	ビューティーコーディネート科	72 単位	美容師科	68 単位	ヘアメイク・アイデザイン科	68 単位
学科名	卒業に必要な単位																		
ファッションクリエイター科	130 単位																		
ファッションライフデザイン学科	105 単位																		
ファッションビジネス科	67 単位																		
ブライダル科	63 単位																		
アドバンスドブライダル科	34 単位																		
ビューティーコーディネート科	72 単位																		
美容師科	68 単位																		
ヘアメイク・アイデザイン科	68 単位																		
卒業の認定に関する方針の公表方法	閲覧用シラバスファイルに添付し教職員室に備え付け公表。 また、学生には、Web 上の LMS を使用して、授業時間数や卒業認定基準などを記載した「学生生活の手引き」を閲覧できるようにしている。なお、入学ガイダンスおよび保護者あての郵送物でも、授業時間数および卒業認定基準を公表。卒業認定については、卒業発表日を設け、学生に告知・成績表を配布。																		

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	横浜 f カレッジ
設置者名	学校法人岩崎学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.iwasaki.ac.jp/financial_2026/
収支計算書又は損益計算書	https://www.iwasaki.ac.jp/financial_2026/
財産目録	https://www.iwasaki.ac.jp/financial_2026/
事業報告書	https://www.iwasaki.ac.jp/financial_2026/
監事による監査報告（書）	https://www.iwasaki.ac.jp/financial_2026/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
服飾・家政		服飾・家政 専門課程	ファッションクリエイター科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼	130 単位	25 単位	172 単位	1 単位	0 単位	0 単位
			198 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		25 人	0 人	3 人	6 人	9 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（授業方法及び内容） 企業連携授業やインターンシップ、グループワーク、プロジェクト型学習を通して、ファッションデザインからブランド企画、製品開発、販売戦略までを総合的に学び、実践力を養成する。また、3D モデリングや AI 活用、デジタルデザインなど最新のテクノロジーに対応した授業を実施し、創造力と技術力を兼ね備えた人材を育成する。デザイナー、パタンナー、衣装デザイナー、ブランドプロデューサー、3D モデリスト等、ファッション業界の幅広い職種に対応した教育を行う。 （年間の授業計画） 当該年度の前年度に、当該年度の学科毎の教育計画（学科グランドデザイン）を策定し、教育関係者評価委員会で検討。その結果を反映させた学科グランドデザインに基づき、科目毎に、下記内容で構成されたシラバスを当該前年度末までに作成・公開。 ・科目名、授業方法、授業時間数、単位数、企業連携の有無 ・担当講師名、講師区分、実務経験の有無（有の場合：実務経験内容） ・科目概要、達成目標、学科内の科目位置付け、関連科目 ・科目評価基準（評価方法：試験評価、出席評価、課題評価） ・年間授業計画（単元ごとの授業内容、課題内容、学習達成点） オムニバス形式の授業の場合は、単元ごとに講師名を記載する。

成績評価の基準・方法																																																					
(概要) 学修成果の評価については、授業科目毎にシラバスに明記し、予め学生の学習目標となるよう提示。評価は、前期と学年末に、シラバスに明記した評価基準を基に 5 段階または 2 段階評価で実施。通年科目の学年末評価は、前期評価も含めた総合評価としている。 (成績評価基準) ・ 5 段階評価の場合 - S : 100 点法における 100～90 点に該当 - A : 100 点法における 89～80 点に該当 - B : 100 点法における 79～70 点に該当 - C : 100 点法における 69～60 点に該当 - D (不合格) : 100 点法における 59～0 点に該当 ・ 2 段階評価の場合 - 認 : 合格 - 否 : 不合格 ※両評価方法とも、欠席が出席すべき教科科目の 3 分の 1 を超えるものは不合格となる。																																																					
卒業・進級の認定基準																																																					
(概要) 成績の評価の「S」、「A」、「B」、「C」および「認」評価を合格とし、合格した科目については、所定の単位を認定する。 卒業・進級にあたっては、必修・選択必修科目の単位がすべて認定されることが条件となる。																																																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学科名</th><th colspan="4">必要な単位</th></tr> <tr> <th>1 年次</th><th>2 年次</th><th>3 年次</th><th>4 年次</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ファッションクリエイター科</td><td>34</td><td>32</td><td>33</td><td>31</td></tr> <tr> <td>ファッションライフデザイン学科</td><td>39</td><td>33</td><td>33</td><td>—</td></tr> <tr> <td>ファッションビジネス科</td><td>36</td><td>31</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr> <td>ブライダル科</td><td>32</td><td>31</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr> <td>アドバンスドブライダル科</td><td>34</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr> <td>ビューティーコーディネート科</td><td>36</td><td>36</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr> <td>美容師科</td><td>34</td><td>34</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr> <td>ヘアメイク・アイデザイン科</td><td>34</td><td>34</td><td>—</td><td>—</td></tr> </tbody> </table>					学科名	必要な単位				1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	ファッションクリエイター科	34	32	33	31	ファッションライフデザイン学科	39	33	33	—	ファッションビジネス科	36	31	—	—	ブライダル科	32	31	—	—	アドバンスドブライダル科	34	—	—	—	ビューティーコーディネート科	36	36	—	—	美容師科	34	34	—	—	ヘアメイク・アイデザイン科	34	34	—	—
学科名	必要な単位																																																				
	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次																																																	
ファッションクリエイター科	34	32	33	31																																																	
ファッションライフデザイン学科	39	33	33	—																																																	
ファッションビジネス科	36	31	—	—																																																	
ブライダル科	32	31	—	—																																																	
アドバンスドブライダル科	34	—	—	—																																																	
ビューティーコーディネート科	36	36	—	—																																																	
美容師科	34	34	—	—																																																	
ヘアメイク・アイデザイン科	34	34	—	—																																																	
学修支援等																																																					
(概要) クラス担任制をとり、定期的な個人面談を実施し、学生の適性や個性を尊重した対応に努めている。また、より良い職業人の育成をめざし、学生生活の中に、入学年次の 4 月～9 月の導入教育から、企業連携授業・インターンシップ、就職指導を有機的につなげるプログラムを配している。																																																					

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)

(主な就職、業界等)
(就職指導内容) 就職指導担当教職員が中心に就職指導を実施。主な内容は、就職面談、面接対策指導、筆記対策指導、校内合同企業説明会開催、各業界企業セミナー開催などを実施している。
(主な学修成果（資格・検定等）)
(備考)（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任/学科リーダーによる個別面談や三者面談で、状況把握と適切な対応。カウンセラーにおけるカウンセリング対応。入学前教育の充実で、ミスマッチの防止。奨学金の紹介や学費分割納入制度などの経済的支援。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政 専門課程	ファッションライフデザイン学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3	昼	105 単位 (2 年生は 2,655 時間) ＜3 年生は 2,640 時間＞	31 単位 (480 時間) ＜480 時間＞	104 単位 (2,310 時間) ＜2,370 時間＞	0 単位 (795 時間) ＜720 時間＞	0 単位 (0 時間) ＜0 時間＞	0 単位 (0 時間) ＜0 時間＞
			135 単位(2 年生は 3,585 時間)＜3 年生は 3,570 時間＞				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		56 人	0 人	2 人	10 人	12 人	

※令和 7 年 4 月 1 日、令和 8 年 4 月 1 日に学則変更を実施。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（授業方法及び内容） アパレル関連企業との連携授業やインターンシップ、活発なグループワークを通して、ファッションビジネスをトータルに捉える視座を養うとともに、実践力を養成。また、ファッション関連の最新テクノロジーに対応したカリキュラムで、IT スキルも兼ね備えた人財を育成する為の授業を実施。デザイナー、パタンナー、3D モデリング、企画、総合職、プレス等、アパレル業界の幅広い職種をめざす。 （年間の授業計画） 当該年度の前年度に、当該年度の学科毎の教育計画（学科グランドデザイン）を策定し、教育関係者評価委員会で検討。その結果を反映させた学科グランドデザインに基づき、科目毎に、下記内容で構成されたシラバスを当該前年度末までに作成・公開。 ・科目名、授業方法、授業時間数、単位数、企業連携の有無 ・担当講師名、講師区分、実務経験の有無（有の場合：実務経験内容） ・科目概要、達成目標、学科内の科目位置付け、関連科目 ・科目評価基準（評価方法：試験評価、出席評価、課題評価） ・年間授業計画（単元ごとの授業内容、課題内容、学習達成点） オムニバス形式の授業の場合は、単元ごとに講師名を記載する。
成績評価の基準・方法
（概要） 学修成果の評価については、授業科目毎にシラバスに明記し、予め学生の学習目標となるよう提示。評価は、前期と学年末に、シラバスに明記した評価基準を基に 5 段階または 2 段階評価で実施。通年科目の学年末評価は、前期評価も含めた総合評価としている。 （成績評価基準） ・5 段階評価の場合 - S：100 点法における 100～90 点に該当 - A：100 点法における 89～80 点に該当 - B：100 点法における 79～70 点に該当 - C：100 点法における 69～60 点に該当 - D（不合格）：100 点法における 59～0 点に該当 ・2 段階評価の場合 - 認：合格 - 否：不合格 ※両評価方法とも、欠席が出席すべき教科科目の 3 分の 1 を超えるものは不合格となる。

卒業・進級の認定基準				
(概要)				
成績の評価の「S」、「A」、「B」、「C」および「認」評価を合格とし、合格した科目については、所定の単位を認定する。				
卒業・進級にあたっては、必修・選択必修科目の単位がすべて認定されることが条件となる。				
学科名	必要な単位			
	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
ファッションクリエイター科	34	32	33	31
ファッションライフデザイン学科	39	33	33	—
ファッションビジネス科	36	31	—	—
ブライダル科	32	31	—	—
アドバンスドブライダル科	34	—	—	—
ビューティーコーディネート科	36	36	—	—
美容師科	34	34	—	—
ヘアメイク・アイデザイン科	34	34	—	—
学修支援等				
(概要)				
クラス担任制をとり、定期的な個人面談を実施し、学生の適性や個性を尊重した対応に努めている。また、より良い職業人の育成をめざし、学生生活の中に、入学年次の4月～9月の導入教育から、企業連携授業・インターンシップ、就職指導を有機的につなげるプログラムを配している。				
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）				
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他	
33 人 (100%)	0 人 (0.0%)	32 人 (97.0%)	1 人 (3.0%)	
(主な就職、業界等)				
(株)パル（総合職）・MARK STYLER(株)（販売職）・(株)ウィゴー（総合職）・(株)ラコステ（販売職）・デサントジャパン(株)（販売職）・(株)ジュン（販売職）・(株)タカラ（縫製職） 合同会社 PVH ジャパン（販売職）・(株)アイステッチ（縫製職）・(株)アズノウアズ（販売職）・(株)エンドレス（販売職）ほか				
(就職指導内容)				
就職指導担当教職員が中心に就職指導を実施。主な内容は、就職面談、面接対策指導、筆記対策指導、校内合同企業説明会開催、各業界企業セミナー開催などを実施している。				
(主な学修成果（資格・検定等））				
・色彩技能パーソナルカラー検定モジュール1 ・色彩技能パーソナルカラー検定モジュール2 ・ファッションビジネス能力検定3級 ・3D モデリスト検定3級 ・洋裁技術検定初級・中級・上級				
(備考)（任意記載事項）				

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
95 人	6 人	6.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更、病気療養		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任/学科リーダーによる個別面談や三者面談で、状況把握と適切な対応。カウンセラーにおけるカウンセリング対応。入学前教育の充実で、ミスマッチの防止。奨学金の紹介や学費分割納入制度などの経済的支援。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		服飾・家政 専門課程	ファッションビジネス科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	67 単位 (2 年生は 1,710 時間)	20 単位 (480 時間)	67 単位 (1,500 時間)	0 単位 (0 時間)	0 単位 (0 時間)	0 単位 (0 時間)
			87 単位 (2 年生は 1,980 時間)				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
140 人		74 人	0 人	4 人	14 人	18 人	

※令和 8 年 4 月 1 日に学則変更を実施。

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(授業方法及び内容) アパレル企業、ファッション系出版社等との連携を推進した実習・演習型の教育課程で、ファッション業界を戦略的、分析的に捉える視座を養う。多様化するファッションビジネスの世界で、販売、流通、EC、プロモーション、スタイリスト等の分野で幅広く活躍できる人財を育成する為の授業を実施。 (年間の授業計画) 当該年度の前年度に、当該年度の学科毎の教育計画 (学科グランドデザイン) を策定し、教育関係者評価委員会で検討。その結果を反映させた学科グランドデザインに基づき、科目毎に、下記内容で構成されたシラバスを当該前年度末までに作成・公開。 ・科目名、授業方法、授業時間数、単位数、企業連携の有無 ・担当講師名、講師区分、実務経験の有無 (有の場合：実務経験内容) ・科目概要、達成目標、学科内の科目位置付け、関連科目 ・科目評価基準 (評価方法：試験評価、出席評価、課題評価) ・年間授業計画 (単元ごとの授業内容、課題内容、学習達成点) オムニバス形式の授業の場合は、単元ごとに講師名を記載する。
成績評価の基準・方法
(概要) 学修成果の評価については、授業科目毎にシラバスに明記し、予め学生の学習目標となるよう提示。評価は、前期と学年末に、シラバスに明記した評価基準を基に 5 段階または 2 段階評価で実施。通年科目の学年末評価は、前期評価も含めた総合評価としている。 (成績評価基準) ・5 段階評価の場合 - S : 100 点法における 100～90 点に該当 - A : 100 点法における 89～80 点に該当 - B : 100 点法における 79～70 点に該当 - C : 100 点法における 69～60 点に該当 - D (不合格) : 100 点法における 59～0 点に該当 ・2 段階評価の場合 - 認：合格 - 否：不合格 ※両評価方法とも、欠席が出席すべき教科科目の 3 分の 1 を超えるものは不合格となる。

卒業・進級の認定基準				
(概要) 成績の評価の「S」、「A」、「B」、「C」および「認」評価を合格とし、合格した科目については、所定の単位を認定する。 卒業・進級にあたっては、必修・選択必修科目の単位がすべて認定されることが条件となる。				
学科名	必要な単位			
	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
ファッションクリエイター科	34	32	33	31
ファッションライフデザイン学科	39	33	33	—
ファッションビジネス科	36	31	—	—
ブライダル科	32	31	—	—
アドバンスドブライダル科	34	—	—	—
ビューティーコーディネート科	36	36	—	—
美容師科	34	34	—	—
ヘアメイク・アイデザイン科	34	34	—	—
学修支援等				
(概要) クラス担任制をとり、定期的な個人面談を実施し、学生の適性や個性を尊重した対応に努めている。また、より良い職業人の育成をめざし、学生生活の中に、入学年次の4月～9月の導入教育から、企業連携授業・インターンシップ、就職指導を有機的につなげるプログラムを配している。				

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
45 人 (100%)	1 人 (2.2%)	42 人 (93.3%)	2 人 (4.4%)
(主な就職、業界等) (株)TSI、(株)エス・グルーヴ、(株)ジュン、(株)ナルミヤインターナショナル、(株)ピーアンドエム、(株)アイステッチ、(株)リーガルコーポレーション、(株)パル、(株)アーバンリサーチ、(株)バロックジャパンリミテッド、(株)ステップス、(株)ステイゴールド、(株)バーンデストローズジャパンリミテッド、ヒットユニオン(株)、アクロストランスポート(株) ほか			
(就職指導内容) 就職指導担当教職員が中心に就職指導を実施。主な内容は、就職面談、面接対策指導、筆記対策指導、校内合同企業説明会開催、各業界企業セミナー開催などを実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・ファッションビジネス能力検定3級 ・トータルスタイリスト検定 ジュニアレベル ・色彩技能パーソナルカラー検定 モジュール1 ・ネットショップ実務士補			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
87 人	10 人	11.5%
(中途退学の主な理由) 病気療養、経済事情、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任/学科リーダーによる個別面談や三者面談などで、状況把握と適切な対応。カウンセラーにおけるカウンセリング対応。入学前教育の充実で、ミスマッチの防止。奨学金の紹介や学費分割納入制度などの経済的支援。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
文化・教養		文化・教養 専門課程	ブライダル科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	63 単位 (2 年生は 1,755 時間)	11 単位 (135 時間)	50 単位 (465 時間)	2 単位 (1,155 時間)	0 単位 (0 時間)	0 単位 (0 時間)
			63 単位(2 年生は 1,755 時間)				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人		142 人	0 人	5 人	11 人	16 人	

※令和 8 年 4 月 1 日に学則変更を実施。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（授業方法及び内容） 本学科は、開設以来、一貫して本物の婚礼をプロデュースする実践的な「ブライダルプロジェクト」の授業を核に、教育課程を編成している。業界企業と学生が直接コンタクトを取り、協業するプログラムを通して、職種への理解を促進するとともに、求められるスキル、ホスピタリティマインドを養成し、ブライダル業界で実践的に活躍できる人材を育成する為の授業を実施。 （年間の授業計画） 当該年度の前年度に、当該年度の学科毎の教育計画（学科グランドデザイン）を策定し、教育関係者評価委員会で検討。その結果を反映させた学科グランドデザインに基づき、科目毎に、下記内容で構成されたシラバスを当該前年度末までに作成・公開。 ・科目名、授業方法、授業時間数、単位数、企業連携の有無 ・担当講師名、講師区分、実務経験の有無（有の場合：実務経験内容） ・科目概要、達成目標、学科内の科目位置付け、関連科目 ・科目評価基準（評価方法：試験評価、出席評価、課題評価） ・年間授業計画（単元ごとの授業内容、課題内容、学習達成点） オムニバス形式の授業の場合は、単元ごとに講師名を記載する。

成績評価の基準・方法
（概要） 学修成果の評価については、授業科目毎にシラバスに明記し、予め学生の学習目標となるよう提示。評価は、前期と学年末に、シラバスに明記した評価基準を基に 5 段階または 2 段階評価で実施。通年科目の学年末評価は、前期評価も含めた総合評価としている。 （成績評価基準） ・5 段階評価の場合 - S：100 点法における 100～90 点に該当 - A：100 点法における 89～80 点に該当 - B：100 点法における 79～70 点に該当 - C：100 点法における 69～60 点に該当 - D（不合格）：100 点法における 59～0 点に該当 ・2 段階評価の場合 - 認：合格 - 否：不合格 ※両評価方法とも、欠席が出席すべき教科科目の 3 分の 1 を超えるものは不合格となる。

卒業・進級の認定基準				
(概要) 成績の評価の「S」、「A」、「B」、「C」および「認」評価を合格とし、合格した科目については、所定の単位を認定する。 卒業・進級にあたっては、必修・選択必修科目の単位がすべて認定されることが条件となる。				
学科名	必要な単位			
	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
ファッションクリエイター科	34	32	33	31
ファッションライフデザイン学科	39	33	33	—
ファッションビジネス科	36	31	—	—
ブライダル科	32	31	—	—
アドバンスドブライダル科	34	—	—	—
ビューティーコーディネート科	36	36	—	—
美容師科	34	34	—	—
ヘアメイク・アイデザイン科	34	34	—	—
学修支援等				
(概要) クラス担任制をとり、定期的な個人面談を実施し、学生の適性や個性を尊重した対応に努めている。 また、より良い職業人の育成をめざし、学生生活の中に、入学年次の 4 月～9 月の導入教育から、企業連携授業・インターンシップ、就職指導を有機的につなげるプログラムを配している。				

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
64 人 (100%)	0 人 (0.0%)	63 人 (98.4%)	1 人 (1.6%)
(主な就職、業界等) (株)富士屋ホテル、(株)横浜ベイホテル東急、相鉄ホテル(株)、グレイスホテル(株)、横浜ホスピタリティ・サービス(株)、(株)ケン・ホテルマネジメント横浜山下町 (株)昭特製作所、(株)フォーシス アンド カンパニー、株式会社 遠藤波津子美容室、 (株)ネスパ・ディディ、(株)ベリテ、(株)ハマフローリスト、 フェスタリアホールディングス(株) ほか			
(就職指導内容) 就職指導担当教職員が中心に就職指導を実施。主な内容は、就職面談、面接対策指導、筆記対策指導、校内合同業界説明会開催、各業界企業セミナー等を実施。			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・(公社) 実務技能検定協会主催 サービス接客検定 1 級 準 1 級 2 級 ・(公社) 日本ブライダル文化振興協会主催 ブライダルコーディネーター技能検定 2 級 3 級			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
145 人	16 人	11.0%
(中途退学の主な理由) 病気療養、経済事情、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任/学科リーダーによる個別面談や三者面談などで、状況把握と適切な対応。カウンセラーにおけるカウンセリング対応。入学前教育の充実で、ミスマッチの防止。奨学金の紹介や学費分割納入制度などの経済的支援。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	アドバンスド ブライダル科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	34 単位	14 単位	20 単位	0 単位	0 単位	0 単位
			34 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		0 人	0 人	0 人	2 人	2 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（授業方法及び内容） 業界企業と学生が直接コンタクトを取り、協業するプログラムを通して、職種への理解を促進するとともに、求められるスキル、ホスピタリティマインドを養成し、ブライダル業界で実践的に活躍できる人材を育成する為の授業を実施。インターンシップやイベント運営など、現場でのリアルジョブを通し、知識だけでなく現場力アップを図り、即戦力となる人材を育成する。 （年間の授業計画） 当該年度の前年度に、当該年度の学科毎の教育計画（学科グランドデザイン）を策定し、教育関係者評価委員会で検討。その結果を反映させた学科グランドデザインに基づき、科目毎に、下記内容で構成されたシラバスを当該前年度末までに作成・公開。 ・科目名、授業方法、授業時間数、単位数、企業連携の有無 ・担当講師名、講師区分、実務経験の有無（有の場合：実務経験内容） ・科目概要、達成目標、学科内の科目位置付け、関連科目 ・科目評価基準（評価方法：試験評価、出席評価、課題評価） ・年間授業計画（単元ごとの授業内容、課題内容、学習達成点） オムニバス形式の授業の場合は、単元ごとに講師名を記載する。
成績評価の基準・方法
（概要） 学修成果の評価については、授業科目毎にシラバスに明記し、予め学生の学習目標となるよう提示。評価は、前期と学年末に、シラバスに明記した評価基準を基に 5 段階または 2 段階評価で実施。通年科目の学年末評価は、前期評価も含めた総合評価としている。 （成績評価基準） ・5 段階評価の場合 - S：100 点法における 100～90 点に該当 - A：100 点法における 89～80 点に該当 - B：100 点法における 79～70 点に該当 - C：100 点法における 69～60 点に該当 - D（不合格）：100 点法における 59～0 点に該当 ・2 段階評価の場合 - 認：合格 - 否：不合格 ※両評価方法とも、欠席が出席すべき教科科目の 3 分の 1 を超えるものは不合格となる。

卒業・進級の認定基準				
(概要) 成績の評価の「S」、「A」、「B」、「C」および「認」評価を合格とし、合格した科目については、所定の単位を認定する。 卒業・進級にあたっては、必修・選択必修科目の単位がすべて認定されることが条件となる。				
学科名	必要な単位			
	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
ファッションクリエイター科	34	32	33	31
ファッションライフデザイン学科	39	33	33	—
ファッションビジネス科	36	31	—	—
ブライダル科	32	31	—	—
アドバンスドブライダル科	34	—	—	—
ビューティーコーディネート科	36	36	—	—
美容師科	34	34	—	—
ヘアメイク・アイデザイン科	34	34	—	—
学修支援等				
(概要) 定期的な個人面談を実施し、学生の適性や個性を尊重した対応に努めている。 また、より高度な職業人の育成をめざし、学生生活の中に、企業連携授業・インターンシップ、地域活性化イベント等を有機的につなげるプログラムを配している。				

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
(主な就職、業界等) 令和 7 年度は、在籍生なし			
(就職指導内容) 就職指導担当教職員が中心に就職指導を実施。主な内容は、就職面談、面接対策指導、筆記対策指導、校内合同業界説明会開催、各業界企業セミナー等を実施。志望企業への OJT を通し、就職にも繋げていく。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 令和 7 年度は、在籍生なし			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 教員による個別面談や三者面談などで、状況把握と適切な対応。カウンセラーにおけるカウンセリング対応。奨学金の紹介や学費分割納入制度などの経済的支援。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	ビューティー コーディネート科 メイクアップコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	72 単位 (2 年生は 1,710 時間)	52 単位 (270 時間)	82 単位 (1,440 時間)	0 単位 (0 時間)	0 単位 (0 時間)	0 単位 (0 時間)
			134 単位(2 年生は 1,710 時間)				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人の内数		179 人の内数	0 人	5 人の内数	14 人の内数	19 人の内数	

※令和 8 年 4 月 1 日に学則変更を実施。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（授業方法及び内容） メイク・ネイル・エステティック企業や関連団体との連携の下、美容に関わる実践的な知識と技術を習得し、ビューティーアドバイザーをはじめとした、美容分野で活躍できる職業人の育成を目的としている。 （年間の授業計画） 当該年度の前年度に、当該年度の学科毎の教育計画（学科グランドデザイン）を策定し、教育関係者評価委員会で検討。その結果を反映させた学科グランドデザインに基づき、科目毎に、下記内容で構成されたシラバスを当該前年度末までに作成・公開。 ・科目名、授業方法、授業時間数、単位数、企業連携の有無 ・担当講師名、講師区分、実務経験の有無（有の場合：実務経験内容） ・科目概要、達成目標、学科内の科目位置付け、関連科目 ・科目評価基準（評価方法：試験評価、出席評価、課題評価） ・年間授業計画（单元ごとの授業内容、課題内容、学習達成点） オムニバス形式の授業の場合は、单元ごとに講師名を記載する。
成績評価の基準・方法
（概要） 学修成果の評価については、授業科目毎にシラバスに明記し、予め学生の学習目標となるよう提示。評価は、前期と学年末に、シラバスに明記した評価基準を基に 5 段階または 2 段階評価で実施。通年科目の学年末評価は、前期評価も含めた総合評価としている。 （成績評価基準） ・5 段階評価の場合 - S：100 点法における 100～90 点に該当 - A：100 点法における 89～80 点に該当 - B：100 点法における 79～70 点に該当 - C：100 点法における 69～60 点に該当 - D（不合格）：100 点法における 59～0 点に該当 ・2 段階評価の場合 - 認：合格 - 否：不合格 ※両評価方法とも、欠席が出席すべき教科科目の 3 分の 1 を超えるものは不合格となる。

卒業・進級の認定基準				
(概要) 成績の評価の「S」、「A」、「B」、「C」および「認」評価を合格とし、合格した科目については、所定の単位を認定する。 卒業・進級にあたっては、必修・選択必修科目の単位がすべて認定されることが条件となる。				
学科名	必要な単位			
	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
ファッションクリエイター科	34	32	33	31
ファッションライフデザイン学科	39	33	33	—
ファッションビジネス科	36	31	—	—
ブライダル科	32	31	—	—
アドバンスドブライダル科	34	—	—	—
ビューティーコーディネート科	36	36	—	—
美容師科	34	34	—	—
ヘアメイク・アイデザイン科	34	34	—	—
学修支援等				
(概要) クラス担任制をとり、定期的な個人面談を実施し、学生の適性や個性を尊重した対応に努めている。 また、より良い職業人の育成をめざし、学生生活の中に、入学年次の 4 月～9 月の導入教育から、企業連携授業・インターンシップ、就職指導を有機的につなげるプログラムを配している。				

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
78 人の内数 (100.0%)	1 人の内数 (1.3%)	72 人の内数 (92.3%)	5 人の内数 (6.4%)
(主な就職、業界等) (株)アルビオン、(株)イプサ、(株)エキップ(RMK)、エフ・ジー・ジェイ(株)、オルビス(株)、クラランス(株)、コーセー化粧品販売(株)、コーセー化粧品販売(株)(JIILLSTUART Beauty)、資生堂ジャパン(株)(NARS)、(株)三越伊勢丹ヒューマン・ソリューションズ、日本ロレアル(株)(shu uemura)、日本ロレアル(株)(キールズ)、日本ロレアル(株)(YSL)、(株)マリークワントコスメティックス、株式会社 BEAUTY LINE、株式会社 CIN GROUP、			
(就職指導内容) 就職指導担当教職員が中心に就職指導を実施。主な内容は、就職面談、面接対策指導、校内合同企業説明会開催、各業界企業説明会開催などを実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・日本メイクアップ技術検定 1 級 ・日本化粧品検定 1・2 級			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
185 人の内数	20 人の内数	10.8%
(中途退学の主な理由) 病気療養、経済事情、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任/学科リーダーによる個別面談や三者面談などで、状況把握と適切な対応。カウンセラーにおけるカウンセリング対応。入学前教育の充実で、ミスマッチの防止。奨学金の紹介や学費分割納入制度などの経済的支援。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	ビューティー コーディネート科 ネイルコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	72 単位 (2 年生は 1,710 時間)	52 単位 (270 時間)	82 単位 (1,440 時間)	0 単位 (0 時間)	0 単位 (0 時間)	0 単位 (0 時間)
			134 単位 (2 年生は 1,710 時間)				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人の内数		179 人の内数	0 人	5 人の内数	14 人の内数	19 人の内数	

※令和 8 年 4 月 1 日に学則変更を実施。

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(授業方法及び内容) メイク・ネイル・エステティック企業や関連団体との連携の下、メイク・ネイル・エステティック等の基礎知識と技術を基盤にネイリストに求められる商材、衛生面に関する知識と様々なネイル技術を習得、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成する。 (年間の授業計画) 当該年度の前年度に、当該年度の学科毎の教育計画（学科グランドデザイン）を策定し、教育関係者評価委員会で検討。その結果を反映させた学科グランドデザインに基づき、科目毎に、下記内容で構成されたシラバスを当該前年度末までに作成・公開。 ・科目名、授業方法、授業時間数、単位数、企業連携の有無 ・担当講師名、講師区分、実務経験の有無（有の場合：実務経験内容） ・科目概要、達成目標、学科内の科目位置付け、関連科目 ・科目評価基準（評価方法：試験評価、出席評価、課題評価） ・年間授業計画（単位ごとの授業内容、課題内容、学習達成点） オムニバス形式の授業の場合は、単位ごとに講師名を記載する。

成績評価の基準・方法
(概要) 学修成果の評価については、授業科目毎にシラバスに明記し、予め学生の学習目標となるよう提示。評価は、前期と学年末に、シラバスに明記した評価基準を基に 5 段階または 2 段階評価で実施。通年科目の学年末評価は、前期評価も含めた総合評価としている。 (成績評価基準) ・5 段階評価の場合 - S：100 点法における 100～90 点に該当 - A：100 点法における 89～80 点に該当 - B：100 点法における 79～70 点に該当 - C：100 点法における 69～60 点に該当 - D（不合格）：100 点法における 59～0 点に該当 ・2 段階評価の場合 - 認：合格 - 否：不合格 ※両評価方法とも、欠席が出席すべき教科科目の 3 分の 1 を超えるものは不合格となる。

卒業・進級の認定基準				
(概要) 成績の評価の「S」、「A」、「B」、「C」および「認」評価を合格とし、合格した科目については、所定の単位を認定する。 卒業・進級にあたっては、必修・選択必修科目の単位がすべて認定されることが条件となる。				
学科名	必要な単位			
	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
ファッションクリエイター科	34	32	33	31
ファッションライフデザイン学科	39	33	33	—
ファッションビジネス科	36	31	—	—
ブライダル科	32	31	—	—
アドバンスドブライダル科	34	—	—	—
ビューティーコーディネート科	36	36	—	—
美容師科	34	34	—	—
ヘアメイク・アイデザイン科	34	34	—	—
学修支援等				
(概要) クラス担任制を取り、定期的な個人面談を実施し、学生の適性や個性を尊重した対応に努めている。 また、より良い職業人の育成をめざし、学生生活の中に、入学年次の 4 月～9 月の導入教育から、企業連携授業・インターンシップ、就職指導を有機的につなげるプログラムを配している。				

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
78 人の内数 (100.0%)	1 人の内数 (1.3%)	72 人の内数 (92.3%)	5 人の内数 (6.4%)
(主な就職、業界等) (株)エヌ・アイ・シー(NICE NAIL)、(株)Mahalo、(株)LOYAL、(株)Neolive、(株)スタイリスト、(株)ノンストレス、(株)ファイブスター、(株)ファンネクストグループ、ピアノカグループ、ベレックス(株)、(株)ラレーヌ、nail salon Lapin ほか			
(就職指導内容) 就職指導担当教職員が中心に就職指導を実施。主な内容は、就職面談、面接対策指導、校内合同企業説明会開催、各業界企業説明会開催などを実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・ネイリスト技能検定 1・2 級 ・JNA ジェルネイル技能検定 上級			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
185 人の内数	20 人の内数	10.8%
(中途退学の主な理由) 病気療養、経済事情、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任/学科リーダーによる個別面談や三者面談などで、状況把握と適切な対応。カウンセラーにおけるカウンセリング対応。入学前教育の充実で、ミスマッチの防止。奨学金の紹介や学費分割納入制度などの経済的支援。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	ビューティー コーディネート科 エステティック・ウェ ルネスコース	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	72 単位 (2 年生は 1,710 時間)	52 単位 (270 時間)	82 単位 (1,440 時間)	0 単位 (0 時間)	0 単位 (0 時間)	0 単位 (0 時間)
			134 単位(2 年生は 1,710 時間)				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人の内数		179 人の内数	0 人	5 人の内数	14 人の内数	19 人の内数	

※令和 8 年 4 月 1 日に学則変更を実施。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（授業方法及び内容） メイク・ネイル・エステティック企業や関連団体との連携の下、就職活動時やサロンで評価されるエステティック資格の取得を主軸に美容に関わる実践的な知識を習得し、エステティックをはじめとした美容分野で活躍できる職業人の育成を目的としている。 （年間の授業計画） 当該年度の前年度に、当該年度の学科毎の教育計画（学科グランドデザイン）を策定し、教育関係者評価委員会で検討。その結果を反映させた学科グランドデザインに基づき、科目毎に、下記内容で構成されたシラバスを当該前年度末までに作成・公開。 ・科目名、授業方法、授業時間数、単位数、企業連携の有無 ・担当講師名、講師区分、実務経験の有無（有の場合：実務経験内容） ・科目概要、達成目標、学科内の科目位置付け、関連科目 ・科目評価基準（評価方法：試験評価、出席評価、課題評価） ・年間授業計画（単元ごとの授業内容、課題内容、学習達成点） オムニバス形式の授業の場合は、単元ごとに講師名を記載する。
成績評価の基準・方法
（概要） 学修成果の評価については、授業科目毎にシラバスに明記し、予め学生の学習目標となるよう提示。評価は、前期と学年末に、シラバスに明記した評価基準を基に 5 段階または 2 段階評価で実施。通年科目の学年末評価は、前期評価も含めた総合評価としている。 （成績評価基準） ・5 段階評価の場合 - S：100 点法における 100～90 点に該当 - A：100 点法における 89～80 点に該当 - B：100 点法における 79～70 点に該当 - C：100 点法における 69～60 点に該当 - D（不合格）：100 点法における 59～0 点に該当 ・2 段階評価の場合 - 認：合格 - 否：不合格 ※両評価方法とも、欠席が出席すべき教科科目の 3 分の 1 を超えるものは不合格となる。

卒業・進級の認定基準				
(概要) 成績の評価の「S」、「A」、「B」、「C」および「認」評価を合格とし、合格した科目については、所定の単位を認定する。 卒業・進級にあたっては、必修・選択必修科目の単位がすべて認定されることが条件となる。				
学科名	必要な単位			
	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
ファッションクリエイター科	34	32	33	31
ファッションライフデザイン学科	39	33	33	—
ファッションビジネス科	36	31	—	—
ブライダル科	32	31	—	—
アドバンスドブライダル科	34	—	—	—
ビューティーコーディネート科	36	36	—	—
美容師科	34	34	—	—
ヘアメイク・アイデザイン科	34	34	—	—
学修支援等				
(概要) クラス担任制をとり、定期的な個人面談を実施し、学生の適性や個性を尊重した対応に努めている。 また、より良い職業人の育成をめざし、学生生活の中に、入学年次の 4 月～9 月の導入教育から、企業連携授業・インターンシップ、就職指導を有機的につなげるプログラムを配している。				

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
78 人の内数 (100.0%)	1 人の内数 (1.3%)	72 人の内数 (92.3%)	5 人の内数 (6.4%)
(主な就職、業界等) TBC グループ(株)、(株)セントラヴィ、(株)ソシエ・ワールド、(株)ブルーム、(株)森ビルホスピタリティコーポレーション、(株)横浜ヘルシー ほか			
(就職指導内容) 就職指導担当教職員が中心に就職指導を実施。主な内容は、就職面談、面接対策指導、校内合同企業説明会開催、各業界企業説明会開催などを実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・エスティシアンセンター試験 ・AEA 上級認定エスティシアン／筆記・実技			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
185 人の内数	20 人の内数	10.8%
(中途退学の主な理由) 病気療養、経済事情、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任/学科リーダーによる個別面談や三者面談などで、状況把握と適切な対応。カウンセラーにおけるカウンセリング対応。入学前教育の充実で、ミスマッチの防止。奨学金の紹介や学費分割納入制度などの経済的支援。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
衛生		衛生専門課程	美容師科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	68 単位 (2 年生は 2,040 時間)	22 単位 (660 時間)	1 単位 (30 時間)	45 単位 (1,350 時間)	0 単位 (0 時間)	0 単位 (0 時間)
			68 単位 (2 年生は 2,040 時間)				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240 人		228 人	0 人	8 人	10 人	18 人	

※令和 8 年 4 月 1 日に学則変更を実施。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（授業方法及び内容） 厚生労働省認可の美容師養成施設として、美容師をはじめ幅広く美容業界で職業人として活躍できる人材の育成を目指す。特に、美容関連企業や団体、近隣サロンとの連携を行うことで、職業実践的な知識と高い技術力、就労意識を養う為の授業を実施。 （年間の授業計画） 当該年度の前年度に、当該年度の学科毎の教育計画（学科グランドデザイン）を策定し、教育関係者評価委員会で検討。その結果を反映させた学科グランドデザインに基づき、科目毎に、下記内容で構成されたシラバスを当該前年度末までに作成・公開。 ・科目名、授業方法、授業時間数、単位数、企業連携の有無 ・担当講師名、講師区分、実務経験の有無（有の場合：実務経験内容） ・科目概要、達成目標、学科内の科目位置付け、関連科目 ・科目評価基準（評価方法：試験評価、出席評価、課題評価） ・年間授業計画（单元ごとの授業内容、課題内容、学習達成点） オムニバス形式の授業の場合は、单元ごとに講師名を記載する。
成績評価の基準・方法
（概要） 学修成果の評価については、授業科目毎にシラバスに明記し、予め学生の学習目標となるよう提示。評価は、前期と学年末に、シラバスに明記した評価基準を基に 5 段階または 2 段階評価で実施。通年科目の学年末評価は、前期評価も含めた総合評価としている。 （成績評価基準） ・5 段階評価の場合 - S：100 点法における 100～90 点に該当 - A：100 点法における 89～80 点に該当 - B：100 点法における 79～70 点に該当 - C：100 点法における 69～60 点に該当 - D（不合格）：100 点法における 59～0 点に該当 ・2 段階評価の場合 - 認：合格 - 否：不合格 ※なお、美容師養成施設の教科課程の基準の運用に則り、欠席が出席すべき教科科目の 3 分の 1（実習を伴う教科科目にあっては 5 分の 1）を超えるものは不合格となる。

卒業・進級の認定基準				
(概要)				
成績の評価の「S」、「A」、「B」、「C」および「認」評価を合格とし、合格した科目については、所定の単位を認定する。				
卒業・進級にあたっては、必修・選択必修科目の単位がすべて認定されることが条件となる。				
学科名	必要な単位			
	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
ファッションクリエイター科	34	32	33	31
ファッションライフデザイン学科	39	33	33	—
ファッションビジネス科	36	31	—	—
ブライダル科	32	31	—	—
アドバンスドブライダル科	34	—	—	—
ビューティーコーディネート科	36	36	—	—
美容師科	34	34	—	—
ヘアメイク・アイデザイン科	34	34	—	—
学修支援等				
(概要)				
クラス担任制をとり、定期的な個人面談を実施し、学生の適性や個性を尊重した対応に努めている。				
また、より良い職業人の育成をめざし、学生生活の中に、入学年次の 4 月～9 月の導入教育から、企業連携授業・インターンシップ、就職指導を有機的につなげるプログラムを配している。				
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）				
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他	
102 人 (100.0%)	1 人 (1.0%)	96 人 (94.1%)	5 人 (4.9%)	
(主な就職、業界等)				
(株)アッシュ、(株)ケンジ、(株)ウカ、株式会社 grico、株式会社 Mahalo、(株)イメージア、株式会社 fifth、(株)エターナル、(株)dot.、(株)Neolive、 ほか				
(就職指導内容)				
就職指導担当教職員が中心に就職指導を実施。主な内容は、就職面談、面接対策指導、筆記対策指導、校内合同企業説明会開催、各業界企業セミナー開催などを実施している。				
(主な学修成果（資格・検定等）)				
・美容師国家試験				
・パーソナルカラー検定 モジュール 1				
・ネイリスト技能検定 3 級				
・JNA ジェルネイル技能検定 初級				
・ABE まつ毛エクステンション技術者認定試験				
・日本化粧品検定 3 級				
・ビューティビジネス実務検定				
(備考)（任意記載事項）				

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
226 人	16 人	7.1%
(中途退学の主な理由) 病気療養、経済事情、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任/学科リーダーによる個別面談や三者面談などで、状況把握と適切な対応。カウンセラーにおけるカウンセリング対応。入学前教育の充実で、ミスマッチの防止。奨学金の紹介や学費分割納入制度などの経済的支援。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		衛生専門課程	ヘアメイク・ アイデザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	68 単位 (2 年生は 2,040 時間)	22 単位 (660 時間)	1 単位 (30 時間)	45 単位 (1,350 時間)	0 単位 (0 時間)	0 単位 (0 時間)
			68 単位(2 年生は 2,040 時間)				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160 人		157 人	0 人	6 人	8 人	14 人	

※令和 8 年 4 月 1 日に学則変更を実施。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（授業方法及び内容） 厚生労働省認可の美容師養成施設として、美容師をはじめ幅広く美容業界で職業人として活躍できる人材の育成を目指す。特に、美容関連企業や団体、近隣サロンとの連携を行うことで、職業実践的な知識と高い技術力、就労意識を養う為の授業を実施。 （年間の授業計画） 当該年度の前年度に、当該年度の学科毎の教育計画（学科グランドデザイン）を策定し、教育関係者評価委員会で検討。その結果を反映させた学科グランドデザインに基づき、科目毎に、下記内容で構成されたシラバスを当該前年度末までに作成・公開。 ・科目名、授業方法、授業時間数、単位数、企業連携の有無 ・担当講師名、講師区分、実務経験の有無（有の場合：実務経験内容） ・科目概要、達成目標、学科内の科目位置付け、関連科目 ・科目評価基準（評価方法：試験評価、出席評価、課題評価） ・年間授業計画（单元ごとの授業内容、課題内容、学習達成点） オムニバス形式の授業の場合は、单元ごとに講師名を記載する。
成績評価の基準・方法
（概要） 学修成果の評価については、授業科目毎にシラバスに明記し、予め学生の学習目標となるよう提示。評価は、前期と学年末に、シラバスに明記した評価基準を基に 5 段階または 2 段階評価で実施。通年科目の学年末評価は、前期評価も含めた総合評価としている。 （成績評価基準） ・5 段階評価の場合 - S：100 点法における 100～90 点に該当 - A：100 点法における 89～80 点に該当 - B：100 点法における 79～70 点に該当 - C：100 点法における 69～60 点に該当 - D（不合格）：100 点法における 59～0 点に該当 ・2 段階評価の場合 - 認：合格 - 否：不合格 ※なお、美容師養成施設の教科課程の基準の運用に則り、欠席が出席すべき教科科目の 3 分の 1（実習を伴う教科科目にあっては 5 分の 1）を超えるものは不合格となる。

卒業・進級の認定基準				
(概要) 成績の評価の「S」、「A」、「B」、「C」および「認」評価を合格とし、合格した科目については、所定の単位を認定する。 卒業・進級にあたっては、必修・選択必修科目の単位がすべて認定されることが条件となる。				
学科名	必要な単位			
	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
ファッションクリエイター科	34	32	33	31
ファッションライフデザイン学科	39	33	33	—
ファッションビジネス科	36	31	—	—
ブライダル科	32	31	—	—
アドバンスドブライダル科	34	—	—	—
ビューティーコーディネート科	36	36	—	—
美容師科	34	34	—	—
ヘアメイク・アイデザイン科	34	34	—	—
学修支援等				
(概要) クラス担任制をとり、定期的な個人面談を実施し、学生の適性や個性を尊重した対応に努めている。 また、より良い職業人の育成をめざし、学生生活の中に、入学年次の 4 月～9 月の導入教育から、企業連携授業・インターンシップ、就職指導を有機的につなげるプログラムを配している。				

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
35 人 (100.0%)	1 人 (2.9%)	34 人 (97.1%)	0 人 (0.0%)
(主な就職、業界等) (株)Mahalo、(株)クストリンク、(株)MAQUIA、(株)Fair (アイリスト)、(株)relme (株)W I Z (アイブロウリスト) (株)アトリエはるか (ネイリスト) (株)エアーエンターテイメント、(株)式会社 Ash、(株)FORTE (美容師) ほか			
(就職指導内容) 就職指導担当教職員が中心に就職指導を実施。主な内容は、就職面談、面接対策指導、筆記対策指導、校内合同企業説明会開催、各業界企業セミナー開催などを実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・美容師国家試験 ・パーソナルカラー検定 モジュール 1 ・ネイリスト技能検定 3 級 ・JNA ジェルネイル技能検定 初級 ・ABE まつ毛エクステンション技術者認定試験 ・日本化粧品検定 3 級 ・日本化粧品検定 2 級 ・シュウウエムラメイクアップ技術検定 ・ビューティービジネス実務検定			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
115 人	3 人	2.6%
(中途退学の主な理由) 病気療養、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任/学科リーダーによる個別面談や三者面談などで、状況把握と適切な対応。カウンセラーにおけるカウンセリング対応。入学前教育の充実で、ミスマッチの防止。奨学金の紹介や学費分割納入制度などの経済的支援。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	施設維持費 (年間)	備考（任意記載事項）
ファッションクリエイター科	200,000 円	700,000 円	300,000 円	その他：施設維持費
ファッションライフデザイン学科	200,000 円	700,000 円	300,000 円	
ファッションビジネス科	200,000 円	700,000 円	300,000 円	
ブライダル科	200,000 円	700,000 円	240,000 円	
アドバンスドブライダル科	200,000 円	700,000 円	240,000 円	
ビューティーコーディネート科	200,000 円	700,000 円	300,000 円	
美容師科	200,000 円	700,000 円	300,000 円	
ヘアメイク・アイデザイン科	200,000 円	700,000 円	300,000 円	
修学支援（任意記載事項）				
岩崎学園奨学生制度、岩崎学園震災特別対応基金制度、特待生制度、等 日本学生支援機構の給付型奨学金の採用候補者に対して、入学金は入学意思の確認のため一旦納入をお願いしつつ、希望者には授業料等の学費については入学後に授業料等減免額を減じた金額の分割納入を認めている。その他、個々の学生の状況・希望に応じた柔軟な対応を実施している。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) URL : https://yfc.iwasaki.ac.jp/admissions/disclosure/		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
学校目的を達成するための目標設定や具体的計画について、達成状況や取り組みの適切さを自己評価として行い、その結果について、本校に定める学校評議委員会が評価を行う。その目的は、学校評価の精度を上げ、客観性を高めるためのものであり、企業、地域代表、卒業生の意見を積極的に汲み取り反映させる。そのため、学校関係者評価委員会を組織し、学校の活動内容を各委員に周知するとともに、意見交換を行う機会を設ける。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
一般社団法人 東京ファッションデザイナー協議会	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	業界団体
NPO 法人 日本ホテルレストラン経営研究所	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	業界団体
株式会社 Intersection	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	卒業生、企業等委員
株式会社 アルテ ジェネシス	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	企業等委員
花王株式会社	令和8年4月1日～ 令和9年3月31日	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) URL : https://yfc.iwasaki.ac.jp/admissions/disclosure/		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		
第三者評価未実施、学校関係者評価について記載 (実施予定あり)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://yfc.iwasaki.ac.jp/
--

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H114310000250
学校名（〇〇大学 等）	横浜 f カレッジ
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人岩崎学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		211人（105）人	197人（98）人	220人（110）人
内 訳	第Ⅰ区分	87人	73人	
	（うち多子世帯）	（13人）	（11人）	
	第Ⅱ区分	24人	29人	
	（うち多子世帯）	（一人）	（一人）	
	第Ⅲ区分	15人	14人	
	（うち多子世帯）	（一人）	（一人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	34人	28人	
	区分外（多子世帯）	51人	53人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（0）人
合計（年間）				220人（110）人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	0人	一人
計	0人	0人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	0人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	一人	一人	28人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	一人	一人	28人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。